

野呂昭彦さんは昨年4月、衆議院議員、市長を経験した後、知事に就任した。国と地方の新たな関係が模索される今、両方を肌で知る貴重な経験を有している。新総合計画「県民しあわせプラン」とそこに込められた知事の思い、ユニバーサルデザインと新総合計画の関係、そして三重県の将来像に関してお話をうかがった。



のろ あきひこ ●1946年、三重県生まれ。1969年、慶応義塾大学工学部卒業。1972年、同大学院修士課程修了。1983年から1996年まで衆議院議員(連続4期)。2000年、松阪市長。2003年4月より現職

ものの豊かさから、心の豊かさへ 地域主権とUDがキーワードの 「県民しあわせプラン」

三重県知事 **野呂昭彦**さん

聞き手 梶本久夫 本誌編集発行人



三重県総合計画「県民しあわせプラン」



9月末、東京・新宿西口で催された三重県物産展の鈴鹿サーキットのコーナー



特産品に人だかりが

地域主権の社会づくりを目指した 新総合計画「県民しあわせプラン」

知事の肝いりでまとめられた「三重県総合計画」**「県民しあわせプラン」**とUD(ユニバーサルデザイン)の関係について、お聞かせください。

野呂 経済発展の原動力となってきたシステムが制度疲労を起こしています。今、求められるものは何か。ものの豊かさから心の豊かさへ、スローライフという言葉が流行しているように多様な生き方、一人ひとりがそれぞれの価値観にもとづいて幸せを求めめる時代が到来しています。

国会議員を4期、松阪市長を2年9カ月やった後に知事に就任し、県政の将来を考えた時、新しい時代にふさわしい総合計画の必要性をひしひしと感じました。新しい総合計画の理念は「みえけん愛」を育む、しあわせ創造県、で、「県民が主役」「県民との協働」「県民とともに感性を磨く」を県政運営における基本姿勢の

三本柱としています。

人生の舞台である地域づくりを、地域の皆さんに主体となってやっていただく。県民と行政のパートナーシップを通じて、「新しい時代の公」のあり方を追求していければと思っています。

UDは多様性を重視するこの総合計画の底流となる理念です。誰もが、けがや出産などで短期的に移動の制約を受けますし、両手に荷物を抱えている場面では不自由します。これまでの弱者への与える福祉ではなく、すべての県民が当事者意識をもって、UDのまちづくりに取り組んでいくことが肝要でしょう。

UD関連事業にはソフト、ハードともたくさんあります。ソフト事業ではUDの出前講座、UDアドバイザー養成や、アドバイザー地域展開支援などが、ハード事業ではUDによる公共施設の整備や都市整備が挙げられます。UDリーディング事業には多種多様な事業があり、県政をある意味で包括しているといっても過言ではありません。災害時の要介護者に対する避難体制整備支援などもある意味ではUD関連事業といえるでしょう。

「わび」「やび」ものあわれ」 郷土の先人の感性を学び、世界に発信

農業社会、工業社会、情報社会、そして創造化社会へが歴史のうねりです。経済成長から文化成長を軸とする社会へ。「県民とともに感性を磨く」というお話が出ましたが、**三重県のもがさずいん**も同じです。

野呂 今年が郷土が生んだ俳聖、松尾芭蕉の生誕360周年です。彼は「わび」「やび」の概念を提示し、俳



世界遺産に登録された熊野古道



松阪市にある本居宣長記念館

月平均3万8000件もあります。この中で子ども向けに「キッズ広場」を展開しており、わかりやすいと好評です。このような地道な努力の成果か、UDを提唱し活動する市民団体が県内にすでに18団体現れています。

将来像は一言でいえば「元氣な三重県」です。障害者雇用にも注力しており、この4月から知的障害者が県庁で働き出しましたが、来年度からは地域機関にも広がっていきます。

産業界には支援額の多寡により企業誘致を行うのではなく、企業が自律的に来たいと思わせる仕掛けをつくりたい。産官学民の連携はいうまでもありませんが、まちそのものに魅力がなければいけない。そのためUDのまちづくりでもあります。

UDは多様性を前提とする社会ですが、人口減少時代では多様性そのものが活力源になりえます。三重県にも外国人、特に日系ブラジル人が増えており、住民のほとんどが外国人という県営住宅もあるし、園児の3分の1という保育所、2割という小学校もあります。NPOの中には共生社会づくりに動き出した団体もある

これは「みんなで新しい生き方を構築していきましょう」という提案ですが、住民と直に接する市町村長や職員の皆さんが理解してくれないと辛い。市町村と県は対等な協力関係ですから、パートナーとしてどのようなルールでやっていくかが、地域主権の大きな課題になるでしょう。



三重県庁



三重県立美術館

熊野古道が世界遺産に登録されましたが、これは地域の人たちが一生懸命に取り組んできた結果です。熊野古道は険しい山道ですが、自然の中で育んできた癒しの地を地域の宝として守ってきたいと思っています。

人口減少時代の処方箋は多文化共生社会の創造

子どもたちの教育に特に力を注いでいるのはどのような理由からですか。三重県の将来像とあわせてお話をいただけますか。

野呂 過剰な利己主義が蔓延し、命の尊厳を軽んじる傾向がみうけられます。未来を担う子どもたちに共生社会のあり方をどのように教えていくか。そのためのキーワードとなるのがUDです。子どもがUDを知らば、親、そして地域に広がっていきます。UDは総合的学習の時間で扱う格好のテーマといえるでしょう。UDを紹介する県のホームページへのアクセス数は



UD出前講座の講義風景



UD情報広場「キャップハンデ体験」



UD情報広場「キャップハンデ体験」

句を芸術の域にまで高めました。もうひとつの巨星、本居宣長は生涯、松阪に留まって大研究を行った。宣長は『古事記伝』の作者として有名ですが、それまで淫らな物語とみられていた『源氏物語』の素晴らしさ、「もののあわれ」を紹介したのも彼です。能の観世流を興した観阿弥も郷土の出身と、三重県は多数の文化人を輩出しています。

だ成果です。住民の動きが地域全体に広がり、地域の宝が世界の宝になった。道そのものが世界遺産に登録されたのは、ピレネー越えの巡礼路「サンチャゴ・デ・コンポステラ」に続いて2つ目です。世界遺産への登録は、たいへん重い保存責任を負ったともいえます。熊野古道は険しい山道ですが、自然の中で育んできた癒しの地を地域の宝として守ってきたいと思っています。